行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569
東京都港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所 村上研究室
Tel & Fax 03-5421-8766

データマイニングと認知科学

豊田秀樹

近年、急速に注目されているデータ解析手法にデータマイニング(data mining)があります。データマイニングは、大量に集積されたデータウェアハウスの中から利潤を生み出す情報を掘り出すために利用される一群のデータ解析的手法の総称であり、ビジネスデータ解析における次世代の標準と目されています。

小生が大学院生であった1980年代後半は、心理学が認知の夢を見ていました。夜遅くまで研究室に残って、若い心理学徒は競って最新の認知モデルを勉強しました。データマイニングの中核的技術であるニューラルネット・自己組織化・機械学習のブレイクスルーを提示したのは、それぞれラメルハート・コホネン・ミンスキーであり、彼らは、小生のような40歳前後の多くの心理学者にとって馴染み深いビッグネームです。当時は「これから心理学は認知によって大きく変貌する」と胸をときめかせた良き時代でした。

ところが1990年代に入っても、それらのモデルは我が国の認知心理学の中で台頭しませんでした。にもかかわらず「認知」という言葉だけは、我が国の心理学界に急速に広がりました。現在では、自覚や信念や思考様式といったほうが明確な場合でも「認知」という言葉でまとめています。このため「認知」という言葉は識別性の低い言葉になってしまいました。

その後、ニューラルネット・自己組織化・機械学習はビッグサイエンスになりました。工学者が参入したことにより研究費の額が2桁大きくなり、統計学者が参入したことにより数学的に高度になり、オリジナル領域であったはずの心理学者は、残念ながら金銭的にも技術的にも追いつけなくなりました。小生は「非線形多変量解析，朝倉書店」という本を1996年に著して「心理学者（社会科学者）はニューラル「を」研究するのではなく、道具としてニューラル「で」研究しよう」というスローガンを掲げました。

それをまさに始めたのがマーケティングの人たちです。小生はデジャヴを見せられているような目眩を感じました。心理学者が種をまき、工学者・統計学者が水をやり、マーケティングが収穫をする。マーケティング分野の人たちに尊敬の気持ちを抱くと共に、ほんの少し悔しいような心持ちです。

平成12年度第4回理事会議事録

日時：平成12年10月7日(土)6:00pm-8:00pm
場所：東京大学駒場キャンパス
出席者：飽戸弘、市川伸一、岩坪秀一、海野道郎、江川清、大隈昇、岡太彬訓、狩野裕、上笹恒、菊地賢一、久保武士、齋藤堯幸、繁桝算男、杉山明子、垂水共之、馬場康維、林文、前川眞一、村上征勝、柳井晴夫、柳原良造、山岡和枝

1．行動計量学会総会について

事務局より提案のあった総会次第が了承された。

2．第28回大会について

繁桝大会実行委員長より、他学会との関連セッションがあるためか非会員の参加も多く、参加者の出足が好調であることが報告された。

3．第29回大会について

岩坪大会担当理事より、第29回大会は甲子園大学で開催するとの報告があった。また、甲子園大学より会期は大学の夏休み中を予定、2日間ではどうかとの提案があったことが報告された。

この件に関し､これまでは3日あるいは2日半の日程で行われてきており、2日間の開催期間の例はないこと、また多くのセッションがパラレルにならないほうがよいとの意見が出された。

4．各種委員会報告

・繁桝編集委員会委員長より、欧文誌和文誌合同編集委員会を開催したとの報告があった。

・久保和文誌編集委員長より以下の報告があった。論文の審査状況及び27巻1号を発刊した。27巻2号の特集のテーマは岩坪理事の推薦で、故水野欽司会員の行動計量に関する研究を若い人に知ってもらうようなものとすることに決定した。

・狩野欧文誌編集委員長より以下の報告があった。Vol.27, No.2は5編で準備中。出版社を関西の会社に変更、またTexによる製版など今回初めてのことがあり出版が遅れたが12月中に出版の予定。また投稿論文審査状況についても報告があり次号に3編は掲載できそうであること、今後review paper、著名な先生方に執筆していただくspecial issueなど、担当者を決めて進める計画であり、現在候補としては、国民性の国際比較(2001年No.1には間に合わない)、計量犯罪学があがっている。国際化に対応するために、英文校閲を学会としてオフィシャルに頼んではとうかを検討中で、今回の5編について試みとしてMrs. Sarahにお願いした。他学会雑誌では校閲者がEditorial Boardに入っている例もあるが、欧文誌編集委員会ではコンセンサスが得られていない。なお校閲に要する費用については、学会事務局から支出可能との報告があった。論文のpdf file化に関してfull paperをpdf file化し、ホームページから誰もがダウンロードできるようにする提案が検討された。(提案理由は後発のジャーナルが使う方法で、先発との競走上ダウンロードできることをメリットとして関心をひく。Impact factorが科研費の申請の際にも求められているし、海外からの投稿も期待できる。雑誌を売ることと裏腹であり、知名度が高まればやめる。Current issueのみ、あるいは2年分のみとすることも考えられる。和文誌の場合はこの方法では入会者が少なくなるので使えないが、欧文誌を海外で知ってもらうには良い方法である。)ただ著作権の問題や学情で有料ダウンロードを行うこととの関連で問題はないかという質問が出され、これに関しては問題はないが、pdf fileを学情に出す必要があるかもしれないとの報告があった。

・山岡運営委員長より以下の報告があった。今回のチュートリアルセミナーの参加者は49人。今年度の計画として、分類学会との共催シンポジウム定性データの分析といった内容を予定している。合宿セミナーは3月オリンピックセンターで80名2室使い、1泊2日で行う予定である。小グループ研究会は3件。今後なるべく特定の課題についての研究とし、成果の発表(学会発表など)を義務付ける必要がある。

・菊地広報担当理事より以下の報告があった。ホームページの概要の下に役員一覧として氏名のみとして載せる。英文版ホームページの内容

を、情報検索にかかりやすい言葉など工夫する。またホームページから入会申し込みができるようにしてはどうかとの提案があり、この場合の問題点として現在必要である正会員の推薦をどのようにするかが検討され、推薦がなくても申し込むことができ、その場合理事会で承認するという手順を踏むこととなった。
・上笹名誉会員担当理事より今回は推薦を見送るとの報告があった。
・村上学会賞選考委員長より平成１２年度の学会賞受賞者として功績賞　印東太郎氏、優秀賞　江島伸興氏、奨励賞　菊地賢一氏、前田忠彦氏が選考されたことが報告された。
・岡太組織検討委員長より役員選出について６条、１２条の変更案が提案された。１２条の変更に伴い、選挙管理委員は３年間責任を持つことになる。会則の変更ではなく役員選出に関する細則であること、また、監事の欠員を早急に補充することが望ましいことから、会報で事前に広報する前に直接総会にかける。

５．その他
・繁桝理事より日本心理学諸学会連合からの呼びかけに、学会の統一見解としてではなく、繁桝個人として回答した旨の報告があった。
・久保編集委員長より編集委員長を林文理事と交代する、また、あらたに和文誌編集委員会を構成するが、新委員は昨年からの２０名に加え５名を新たに選ぶことになるとの報告があった。
・事務局より統計学研連の委員が岡太彬訓理事から馬場康維理事に交代したとの報告があった。
・事務局より会員の移動状況の報告があった。また長期滞納者１６０名には催促する旨の報告があった。
・杉山理事長より大会参加費を安くしてはどうかの意見が出された。この件に関連して会員が１００人増えれば学会から補助を増やして参加費を安くすることができると事務局から報告があった。また、開催校の出すべき費用、事務局が出すべき費用をはっきりさせる必要があるという意見が出された。

日本学術会議報告

第４部統計学研究連絡委員会委員長
吉村功

はじめに

第１８期日本学術会議つまり今年７月からの３年間、第３部の経済統計学研究連絡委員会には松田芳郎氏、第４部の統計学研究連絡委員会には小生（吉村）が参加しています。先日２人で相談をして、関連学会に知らせた方が良いと考えたことは、それぞれ自分のペースで関連学会に報告しよう、ということにしました。その一つとしてこの報告をします。報告内容の取捨選択は極めて主観的ですが、誤りはしないつもりです。疑問がありましたら、お問い合わせ下さい。

１．統計研連

統計学研究連絡委員会、通称では統計研連、には１４人の委員がいます。名前は、佐伯胖（第１部）、堀部政男（第２部）、松田芳郎（第３部）、吉村功（第４部）、久米均（第５部）、鈴木和夫（第６部）、角田文男（第７部）、大瀧慈（計量生物）、景山三平（数学）、竹村彰通（統計）、垂水共之（計算機統計）、馬場康維（行動計量）、柳川堯（応用統計）、渡辺美智子（統計）です。

第１回会合を１２月９日に開きました。委員長に吉村を、幹事に竹村、渡辺を選びました。今後統計研連に何かを言いたいときはこのうちの誰かにご連絡下さるのが良いと思います。

今期の重点課題として、①統計学関連学会の協調、②統計学のフロンティアの拡大と他分野における統計科学の意義の明確化、③アジアレベルでの統計学研究者の交流を図る、の３つを取り上げることとしました。具体的に何をするかは、これからの検討課題です。

統計研連は、科研費申請の分科「統計科学」は現在「複合領域」に入っています。この「複合領域」をさらに、人文社会系、理工系、生物系、その他、に分類し、「統計科学」を「人文社会系」に入れようという案が、学術会議からでて来ました。これについては「非常に困る」という回答をすることにしました。

ちなみに、「統計科学」の申請件数は毎年約140件程度で横這いになっています。もっと申

請が多くなっても良いのではないでしょうか。科研費で外国出張や外国人の招待が可能ですから、尻込みをしないで積極的に申請をするようにして下さい。

2．日本学術会議での議論

本会議と部会が10月30日～11月2日までの4日間、六本木の学術会議場で開かれました。会長は前期に続いて吉川弘之氏が再任されました。

今期の重点課題が審議され、①人類的課題解決のための日本計画（Japan Perspective）を提案すること、②学術の状況並びに学術と社会との関係に依拠する新しい学術大系を提案すること、の二つが採用されました。

ところで、「学術」って何でしょう？日本の学術を代表する（私を除く）有名人209人の誰もこれに明快に答えることはできませんでした。私も答えることはできません。こういう問には、外延的にしか答えられない、というのが正直なところでしょう。つまり、学術会議が、「そうだ、役に立つ存在だ」と社会認識されるような活動をして社会がその存在をあるイメージで捉えるようになったとき、初めて「学術」が市民権を持つことになります。ところが現在では、大学でやっているようなことという程度のイメージしかないのではないでしょうか。ということは、学術なるものがそれほど大したことはやっていない、ということを意味しているように私には感じられます。それをどうするのがよいか、前期でもいろんな機会にそれを考えたのですが、まだ他人を説得できるような論理構築はできていません。今期はもう少し突き詰めて考えていきたいと思っています。

今期に初めて採用されたことに、「旧姓使用の容認」があります。夫婦別姓論議は、まだ民法としては決着が付いていませんが、日常社会では、旧姓使用の方が自然な場面が多くあります。それなのにお上だけはそれを頑なに排除していました。それが変わったのです。つまり「国家公務員の任用関係においては、公務員としての身分保障や権利にかかわることから、個人の同一性を識別する方法として戸籍名が用いられてきている。この基本原則はこれまで同様尊重して行くものの、一部において旧姓、通称名等の使用が認められている事例があること、研究者の利益を確保する必要もあること等を総合的に勘案し、旧姓、通称名等の使用については下記要領により取り扱うこととする。」ということで、実質的に旧姓、通称を用いて差し支えない、という通達が来ました。統計研連では、渡辺美智子氏にその適用が許されました。このようなことをもっと進めたいと考えています。

学術会議でさえこういうことが認められているということで、女性研究者の皆さんは、勤務先等でも必要な場合には、この種の要求を出されるのがよいように思います。

以上

日本行動計量学会 第4回　春の合宿セミナー の御案内

恒例となりました、日本行動計量学会主催第4回春の合宿セミナーのご案内を以下の様にさせていただきます。今回はデータ解析に関して初心者を対象に行います。なお、申し込み締め切りは既に過ぎておりますが、人数に余裕があれば受け付けております。下記の申し込み先までご連絡下さい。

日程：平成13年3月9日(金)～10日(土)
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
東京都渋谷区代々木神園町3-1
(TEL:03-3467-7201)
(小田急線参宮橋駅下車徒歩約7分または地下鉄千代田線代々木公園駅下車徒歩約10分)
定員：160名(限定)

セミナーの講師および演題

3月9日(金)

午前

多変量解析の道案内
繁桝算男(東京大学大学院)

医学・看護学におけるデータ解析　統計解析・多変量解析の適用と誤用
西川浩昭(筑波大学医療技術短期大学部)

午後
多変量解析と行列演算
前川眞一(大学入試センター)
統計モデルとデータ解析
緒方裕光(国立公衆衛生院)
ナイトセッション
世論調査の精度　－選挙調査を中心に－
杉山明子(東京女子大学)
我国における調査データの質の変化にかかわる諸問題
柳原良造((株)マーケティング・サービス)
3月10日(土)
午前
回帰分析の基礎
大津起夫(北海道大学)
QOLデータの解析
山岡和枝(帝京大学)
午後
因子分析と共分散構造分析 ～事例による入門～
前田忠彦(統計数理研究所)
医学・看護学・保健学における標本数設定と統計検定
松井研一(シミック(株))

参加費、セミナーのプログラム内容などの詳細につきましては、本セミナーのURL:
http://www.twcu.ac.jp/~ehirose/spring.html
をご覧ください。

申し込み先
〒167-8585 東京都杉並区善福寺2－6－1
東京女子大学 現代文化学部
コミュニケーション学科
廣瀬　英子(ehirose@twcu.ac.jp)

合宿セミナーに関する質問などにつきましては、下記まで電子メールにてお願い致します。
日本行動計量学会　運営委員
西川　浩昭(nisikawa@sakura.cc.tsukuba.ac.jp)
廣瀬　英子(ehirose@twcu.ac.jp)

日本行動計量学会
第29回大会のお知らせ

実行委員長 木下冨雄

昨年の東京大学駒場の後を受けて、今年度の学会大会を、甲子園大学でお引き受けすることにしました。日程は、9月14日（金）から16日（日）の3日間です。甲子園という名前が付いているのでよく誤解されるのですが、大学の所在地は宝塚で、ＪＲでも阪急電車でも簡単にアクセス可能です。

東大に比べるとはるかに小さい大学ですので大したおもてなしはできませんが、できるだけ楽しい学会にしようと思い、今のところ次のような催しを考えています。

(1) 講演として、京都大学霊長類研究所の松沢哲郎教授に、霊長類の認知研究の話をお願いしました。松沢教授はアイというチンパンジーと20年以上つき合っておられ、もっぱら図形文字を用いた実験でチンパンジーの言語能力、認識能力を研究されています。行動計量学の立場からすれば、きわめて難度が高く、それだけにきわめてチャレンジングな対象の計量手法を学ぶ絶好の機会でもあります。多数の皆様のご参集をお待ちします。

(2) シンポジュウムの代わりに、今年度はワークショップを複数開催することにしました。その共通テーマは、「ユーザーとメーカーの公開相談会」です。行動計量学会は、日本で唯一といってもよいユーザーとメーカーの協力学会だと思いますが、その割にお互いのコミュニケーションが、十分ではなかったのではないでしょうか。ここらで一つ双方が悩みを持ち寄って、腹蔵のない議論をしようというわけです。いずれ悩み多き方の募集を開始しますので、心当たりの方は是非ご応募下さい。

(3) 宿泊される方は、風情のある宝塚市内に泊まられることをお勧めします。また学会の3日目の午後はフリーにしておりますので、宝塚を楽しんで頂きたいと思っています。宝塚には有名な歌劇がありますし、その他手塚治虫の記念館、富岡鉄斎の美術館、宝塚ファミリーランド、それに宝塚温泉と、付近はエンターテイメントの施設でいっぱいです。そしてわれわれ準

備委員会からの贈り物として、宝塚歌劇のプラチナチケットをご用意しようと企画しています。幸運者の抽選は、大会2日目の総会で行う予定！

開催日時
2001年9月14日～9月16日
(9月13日はチュートリアル開催予定)
開催場所
〒665-0006兵庫県宝塚市紅葉ガ丘10番1号
甲子園大学
ホームページ
http://www.koshien.ac.jp/topic&event/event/bsj2001/index.html

和文誌編集委員会からのお知らせ

「行動計量学」27巻2号は発刊が遅れておりますが、現在印刷に回っており、3月にはお届けできるはずです。また、その次の号もできるだけ早くと計画しております。

編集委員メンバーは新しい名簿の一覧に上がっている20名の方々の他、東京工業大学の屋井鉄雄氏に加わっていただくことになりました。

VII-th Intelligent Statistical Quality Controlに関する国際Workshopの御案内

20余年に亘る伝統的な品質管理の数理的理論と運用に関する研究会組織で、各回3年ごとに開催され、その成果はPhysica-Verlag又はSpringerから、各回の成果は論文成書"Frontiers i Statistical Quality Control"として出版されている。近年、日本の斯界では数理科学としての品質管理論でなく、観念的な運用論が主流で、むしろ統計的品質管理を殆ど不要と軽視する傾向にあるのは誠に残念である。日本の統計学研究者の積極的な参加が要望される。

会長：Professor H.-J. Lenz 及び P.-TH. Wilrich
The Institute of Statistics and Econometrics
Free University of Berlin, Germany
Email：wilrich@wiwiss.fu-berlin.de
会期：2001年9月5日-7日
場所：University of Waterloo, Waterloo, Ontario, Canada
主催会長：Professor Stefan Steiner
Dept. of Statistics and Actuarial Sciences
University of Waterloo, Waterloo, Ontario
E-mail：shsteine@uwaterloo.ca
論文締切り：
アブストラクト(1頁限度)：2001年3月15日
査読後の最終論文提出：2001年8月1日
上記の送付先：アジア圏は、
大阪府堺市百舌鳥梅町4-804 (〒599)
大阪府立大学工学部経営工学科
太田　宏　教授
E-mail：ohta@ie.osakafu-u.ac.jp
Tel.：0722-52-1161, Fax.：0722-59-3340
プログラム委員会（9名）
D.H.Baillie (UK), E.v.Collani (Ger.), H.-J.Lenz (Ger.), H.Ohta (Jpn), S.Steiner (Can.), P.Thyregod (Den.), P.-Th.Wilrich (Ger.),W.Woodall (Ame.), Ch.Asano (Jpn)
参加者：大凡35名に限定。

以上

第4回ARS (アジア圏計算機統計学会)：Bangkok開催のご案内

ISI,IASCの組織で、欧州にCOMPSTATとアジア圏にARSがあり、1998年に第3回ARSがManilaで開催されました。これに引き続き、次の要領で表記の第4回学会がBangkokで開催されます。広範な話題で受理していますので、奮ってご参加下さるようご案内申し上げます。

会期：2001年12月20日-22日
場所：Chulalongkorn大学（Bangkok, Tailand)
論文締切り：2001年9月15日
会長：Professor Virach Aphimeteetamrong, Dean
E-mail：Virach.A@chula.ac.th
Fax.No.：(662)254-4256

事務局：Professor Siriporn Sagetong
(Head of Dept. of Statistics)
Chulalongkorn University
204 Soi Watmaipiren, Wathpr
Phaya Thai Road, Khet Prathunwan
Bangkok 10330, Thailand
Tel.：(662)218-5878
E-mail：fcomssg@phoenix.acc.chula.ac.th
日本側問合せ先：山口和範教授(立教大)・浅野長一郎(アジア圏世話役)

なお、詳細は上記のChulalongkorn大統計学科の事務局およびIASCからAnnouncement(Call-for-Papers)が2月初めに出る筈です。

以上

関連学会等カレンダー

＜学会大会等＞

☆ 第31回数理社会学会大会

会　期：2001年3月14日（水），15日（木）
会　場：光華女子大学
照会先：大会事務局
〒615-0882　京都市右京区西京極葛野町38
光華女子大学文学部 太郎丸研究室　気付
Tel.075-312-1783　Fax.075-321-1360
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jams/
※大会シンポジウム（パネルディスカッション）
テーマ：社会の探求－数理社会学の課題と展望
日時：2001年3月14日（水）14:30～17:00
会場：光華女子大学　本館302教室
概要：数理社会学の中心的研究手法である計量的アプローチ、数理的アプローチ、シミュレーションによるアプローチのそれぞれが、現在どのような課題をかかえており、またそれをブレークスルーするためにはいま何が必要なのかを考える。

☆ 日本発達心理学会第12回大会

会　期：2001年3月27日（火）～29日（木）
会　場：鳴門教育大学
照会先：大会準備委員会
〒772-8502　鳴門市鳴門町高島字中島748
鳴門教育大学学校教育学部幼児教育講座内
E-mail：jsdp12@naruto-u.ac.jp
Fax：088-687-6303（佐々木宏子研究室）
http://www.naruto-u.ac.jp/~e-child/jsdp12.htm

☆ 応用統計学会・日本計量生物学会2001年度合同年次大会

会　期：2001年4月5日（木），6日（金）
会　場：総評会館
（東京都千代田区神田駿河台3-2-11）
内　容：特別講演：福水健次（統数研）「ニューラルネットの推定理論－モデルの対称性と識別不能性－」、椿広計（筑波大）「探索的層別分析の光と陰」、特別セッション・テーマ「欠測データの解析」（オーガナイザ：大瀧慈（広島大））
照会先：合同年次大会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
(財)統計情報研究開発センター内
E-mail：abstat@sinfonica.or.jp
Fax：03-5467-0484

☆ 日本計算機統計学会第15回大会

会　期：2001年5月17日（木），18日（金）
会　場：岡山大学 自然科学研究科棟
照会先：大会事務局
〒700-8530 岡山市津島中3-1-1
岡山大学環境理工学部環境数理学科内
Tel：086-251-8835　Fax：086-251-8835
E-mail：jscs15@f7.ems.okayama-u.ac.jp
http://www.f7.ems.okayama-u.ac.jp/jscs15/

＜シンポジウム等＞

☆ ISM Symposium 2001 - Statistical Researches in Complex Systems -

会　期：2001年3月8日(木)，9日(金)
会　場：統計数理研究所講堂
照会先：統計数理研究所　金藤浩司
〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7
Fax:03-5421-8796
E-mail:symp01complex@ism.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/symp01complex.html

☆ 第11回ソフトサイエンス・ワークショップ

会　期：2001年3月10日(土)，11日(日)
会　場：北陸先端科学技術大学院大学
〒923-1292　石川県能美郡辰口町旭台1-1
共　催：日本ファジィ学会ソフトサイエンス研究会
日本ファジィ学会北信越支部
分　野：計測、調査、データ解析、モデリング、評価、決定、データベース、ヒューマンインタフェース、情報検索、決定支援、心理、教育、社会、経済、歴史、文学、言語、経営、管理、会計、医学、建築、デザイン、芸術、数学、哲学、理学、農業、地球科学、環境、その他

照会先：ソフトサイエンス研究会代表幹事
和多田淳三（大阪工業大学工学部）
〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1
Tel：06-6954-4327　Fax：06-6952-6197
E-mail: ssw11@hii.dim.oit.ac.jp
ソフトサイエンス研究会ホームページ：
http://www.senshu-u.ac.jp/~thc0456/nef/

☆ 人口知能学会　第14回ＡＩシンポジウム
～データマイニングはこう活かせ！～

会　期：2001年3月21日(水), 22日(木)
会　場：早稲田大学国際会議場　第2会議室
（東京都新宿区西早稲田 1-6-1）
テーマ：産業界のデータマイニングチャレンジ
第1日：通信・流通・製造
第2日：エンターテイメント・金融・医療
照会先：人工知能学会事務局
Tel：03-5261-3401　Fax：03-5261-3402
E-mail: account@ai-gakkai.or.jp
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsai/AI-sympo.html

＜国際会議＞

☆ 国際 QOL 学会環太平洋集会
(Pan-Pacific Conference of ISOQOL)

会　期：2001年4月13日（金）～15日（日）
会　場：日本都市センター会館
（東京都千代田区平河町 2-4-1）
照会先：Conference Secretariat
c/o Convention Linkage, Inc.
Fax: 03-5770-5532
E-mail: qol@c-linkage.co.jp
Website: http://www.c-linkage.co.jp/qol/

☆ 計量心理学会国際大会 IMPS-2001
(International Meeting of the Psychometric Society)

会　期：2001年7月15日（日）～19日（木）
会　場：大阪大学 コンベンションセンター（吹田キャンパス）
照会先：大会組織委員会　委員長　柳井晴夫
〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23
大学入試センター研究開発部
Fax：03-5478-1297, E-mail：yanai@rd.dnc.ac.jp
http://www.ir.rikkyo.ac.jp/imps2001/

☆ VII-th Intelligent Statistical Quality Control に関する国際 Workshop
(別記紹介記事参照)

会　期：2001年9月5日（水）～7日（金）
会　場：University of Waterloo, Waterloo, Ontario, Canada
主催会長：Professor Stefan Steiner, Dept. of Statistics and Actuarial Sciences, University of Waterloo, Waterloo, Ontario
E-mail：shsteine@uwaterloo.ca

☆ The First International Symposium on Measurement, Analysis and Modeling of Human Functions (ISHF 2001) /IMEKO, SICE, IEEE

会　期：2001年9月21日（金）～23日（日）
会　場：北海道大学
照会先：ISHF2001 Secretariat
E-mail: ISHF2001@ito.dis.titech.ac.jp
東京工業大学　総合理工学研究科
知能システム科学専攻　伊藤研究室
〒226-8502　横浜市緑区長津田 4259
http://www.ito.dis.titech.ac.jp/ISHF2001/

☆ 第4回ＡＲＳ(アジア圏計算機統計学会)
(別記紹介記事参照)

会　期：2001年12月20日（木）～22日（土）
会　場：Chulalongkorn 大学（Bangkok, Thailand）
照会先：事務局 Professor Siriporn Sagetong
(Dept. of Statistics, Chulalongkorn University)
E-mail: fcomssg@phoenix.acc.chula.ac.th
日本国内問合せ先：山口和範(立教大学), 浅野長一郎(アジア圏世話役)

＜チュートリアル類＞

☆「マイニングソフトの検討と導入」セミナー
(計量心理学会国際大会IMPS-2001 プレ・セミナー)

日　時：2001年3月13日(火)　13:30～17:00
会　場：(社)日本マーケティング協会 アカデミーホール
東京都港区六本木 4-8-5 和幸ビル
Tel:03-3403-5101
主　催：計量心理学会国際大会・組織委員会
内　容：ホームページへの書き込みを分析するテキストマイニングや営業日報、アンケートの自由回答や、Web のログ解析などを解析する手法を紹介するセミナー。理論を述べる講演会ではなく、ユーザーの立場から適用事例を通じて実務家にどう役立つかを理解していただける企画。複数のソフトの展示とデモも行う。
定　員：70名
参加費：2万円
照会・申し込み先：企画代表・専修大学 朝野熙彦
〒214-8580 専修大学生田校舎 9 号館 9518
Fax:044-900-7849
E-mail:asano@isc.senshu-u.ac.jp
詳細は下記を参照
http://www.ir.rikkyo.ac.jp/imps2001/datamining/

公募情報

NACSIS-CIS（下記参照）のキーワード検索でヒットした公募の件数（2月上旬の数字）は、「行動」で2件、「計量」で0件、「測定」で1件、「評価」で10件、「統計」で2件、「数理」で4件、「社会学」で10件、「心理学」で7件、「マーケティング」で1件、「認知」で6件、「看護学」で25件、「公衆衛生」で2件、などでした。

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、研究者等の公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。国立情報学研究所の「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記WEBページも参照して下さい。

http://cis.nacsis.ac.jp/

ただし、以下には上記ページに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。

☆ 筑波大学大学院　経営・政策科学研究科
採用人員：助教授または講師1名
所属：社会工学系
勤務場所：大学院修士課程　経営・政策科学研究科 経営科学システム専攻（専ら夜間において授業を行う専攻、東京都文京区大塚3-29-1）
募集分野：数理科学（ファイナンス理論）
採用予定：2001年9月1日以降の早い時期
応募期限：2001年3月31日
照会先：筑波大学大学院　経営・政策科学研究科 教授　鈴木久敏
Tel: 03-3942-6883, Fax: 03-3942-6829
E-mail: suzuki@gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp

☆ 早稲田大学教育学部
所属：教育学科教育心理学専修
採用人員：教授または助教授または講師1名
研究分野：特殊教育・人格・カウンセリング・知覚・生理・測定・社会・動物・学習等
着任時期：2002年4月1日
応募期限：2001年3月31日
照会先：早稲田大学教育学部　椎名乾平
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
E-mail: shiina@mn.waseda.ac.jp

☆ 山梨大学工学部
採用人員：助教授もしくは講師1名
講座：循環システム工学科社会システム大講座
専門分野：環境問題に関する政策科学分野（環境法学または環境政治学）。なお、実証研究をおこなっていることが望ましい。
着任時期：2001年10月1日以降2002年4月1日までのできるだけ早い時期
応募期限：2001年4月6日
照会先：循環システム工学科 鈴木 嘉彦
Tel/Fax：055-220-8506
E-mail：yosihiko@js.yamanashi.ac.jp
http://www.js.yamanashi.ac.jp/koubo.html

☆ 花園大学社会福祉学部
採用人員：専任教授または専任助教授または専任講師1名
所属：社会福祉学部
担当予定科目：保健社会学または医療福祉論、医療福祉分野の実習等
採用予定：2002年4月1日
応募期限：2001年4月28日
照会先：花園大学総務課（〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1）
Tel: 075-811-5181(代表)
E-mail: soumu@hanazono.ac.jp

会員の著書等

☆ 岡本浩一「無責任の構造」(ＰＨＰ新書141)ＰＨＰ研究所，2001年.
☆ 小林良彰「選挙・投票行動」(社会科学の理論とモデル1)東京大学出版会，2000年.
☆ 盛山和夫「権力」(社会科学の理論とモデル3)東京大学出版会，2000年.
☆ 村上征勝(編集) 大沢清二(編)「スポーツの統計学」(シリーズ 社会現象の計量分析3)朝倉書店，2000年.
☆ 山下智志「市場リスクの計量化とＶａＲ」朝倉書店，2000年.
☆ 渡辺美智子・山口和範(編)「ＥＭアルゴリズムと不完全データの諸問題」多賀出版，2000年.
☆ Brian Mullen(著) 小野寺孝義(訳)「基礎から学ぶメタ分析」ナカニシヤ出版，2000年.

東京大学出版会より、
佐藤博樹・石田浩・池田謙一編
「社会調査の公開データ
－２次分析への招待－」
を寄贈いただきました。ありがとうございました。

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

日本行動計量学会会員数

(2001年1月22日現在)

正会員	1017名
準会員	68名
名誉会員	6名
賛助会員	18社

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

〒226-0015 横浜市緑区三保町32
東洋英和女学院大学　人間科学部
林　文
TEL: 045-922-5511（代表）
045-922-7264（研究室直通）
FAX: 045-922-6642（共用）
e-mail: fumih@toyoeiwa.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒565-0871 吹田市山田丘 1-2
大阪大学人間科学部
日本行動計量学会欧文誌編集委員長
狩野　裕

日本行動計量学会 Web ページ

http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html

日本行動計量学会 第29回大会

http://www.koshien.ac.jp/topic&event/event/bsj2001/index.html

第4回春の合宿セミナー

http://www.twcu.ac.jp/~ehirose/spring.html

編集後記

春の合宿セミナーへのお申し込みは、もうおすみでしょうか？もし、定員に空きがあれば、まだ参加いただけますので、ご希望の方は、お問い合わせください。また、この会報とともに29回大会の1号通信が同封されているかと思います。こちらの方も、ぜひご一読いただいて、ご参加いただければと思います。

さて、我々が会報の作成を担当して、一年が過ぎようとしております。来年度も、会員の皆様のよりお役に立つような会報を目指していこうと思います。連載や特集記事のテーマなどのご希望がございましたら、ぜひご意見をお寄せください。

また、今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書や、関連学会の大会、シンポジウムの案内など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。

会報原稿送付先

皆様からの情報をお待ちしております。

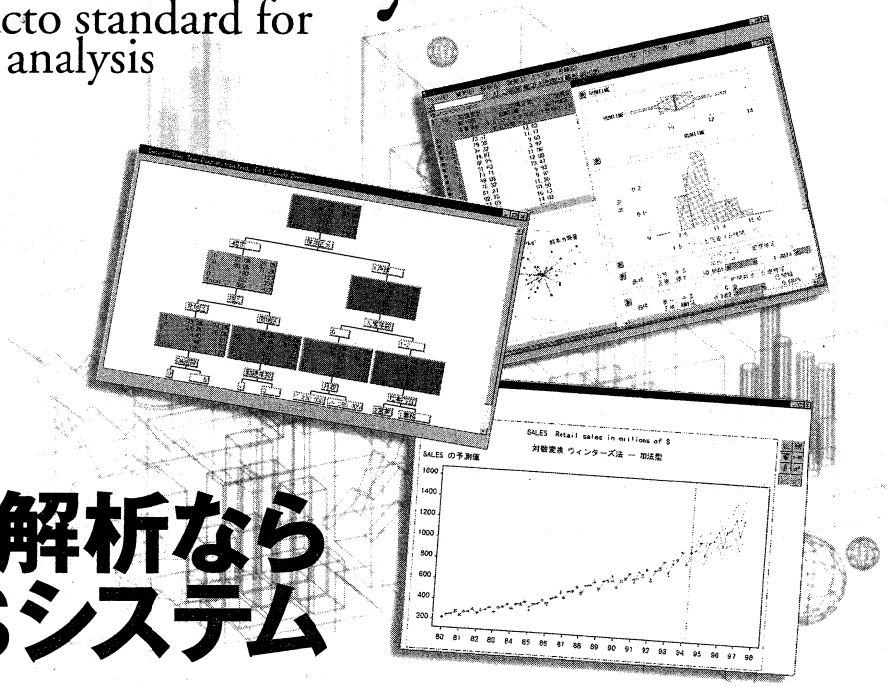
〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23
大学入試センター研究開発部
菊地賢一 kikuchi@rd.dnc.ac.jp
TEL：03-5478-1273
FAX：03-5478-1297

題字：林知己夫
会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子

The SAS System

The de facto standard for statistical analysis

sas e-Intelligence



統計解析なら SASシステム

高度な統計機能で高い評価と信頼性を持つSASシステム。医薬品開発、品質管理、マーケティング分析など、
あらゆる分野で世界中の統計ユーザーに利用されており、初等統計から複雑な統計手法や行列演算までの最新の統計手法が、
GUI環境やプログラミング環境を通して実行可能。SASシステムは、MVA (Multi-Vendor Architecture) のコンセプトにより、
メインフレームからミニコン、ワークステーション、パソコンまでをカバー。もちろん、
主要データベースへのアクセスもサポートしています。また、SASシステムはデータウェアハウスの構築もサポート。
データアクセスから加工、解析、グラフ化、レポーティングまでをひとつのソフトウェアでサポートします。

SASシステムの関連書籍

日本語によるSASシステムのための統計解析関連書籍は
現在、次々と刊行されています。以下はその一部です。

『SASによるデータ解析入門［第2版］』 東大出版会
竹内啓監修 市川伸一、大橋靖雄、岸本淳司、浜田知久馬 著
『SASによる共分散構造分析』東大出版会
竹内啓監修 豊田秀樹 著
『SASによる多変量データの解析』東大出版会
竹内啓監修 前川眞一 著
『SASによる実験データの解析』東大出版会
竹内啓監修 芳賀敏郎、大橋靖雄、高橋行雄 著
『SASによる回帰分析』東大出版会
竹内啓監修 芳賀敏郎、野澤昌弘、岸本淳司 著
『SASによるデータ解析の基礎』培風館
宮脇典彦、阪井和男 著
『文系でもいきなりわかる行列・ベクトル入門』同友館
朝野熙彦 著
『ロジスティク回帰分析 -SASを利用した統計解析の実際-』 朝倉書店
丹後俊郎 山岡和枝 高木晴良 著
『SASでらくらく統計学』有斐閣ブックス
得津一郎、高橋秀世 著
『生存時間解析 -SASによる生物統計-』東大出版会
大橋靖雄、浜田知久馬 著

SASシステムで実現する新しい統計手法

■SAS/STATソフトウェア
Nelderの一般化線形モデル、GEE
ノンパラメトリックな密度推定によるクラスター分析・判別分析
ALSCALとMLSCALの機能をほぼ実現した多次元尺度構成法
混合線形モデル
標本再抽出法による多重性調整p値
Coxの比例ハザードモデル
Andersen & Gillによる再発のモデル化
PLS（Partial Least Squares）
ALSによるノンメトリックな最適尺度変換

■SAS/ETSソフトウェア
ARCH、GARCH、EGARCHモデルの推定
Dicky & Fullerの単位根検定

■SAS/ORソフトウェア
包括的な非線形最適化（超高速2次計画、ユーザー定義尤度関数の最適化）

■SAS/QCソフトウェア
信頼性解析
打ち切りを含むワイブル解析

■SAS/IMLソフトウェア
非線形最適化、数値積分、微分方程式、
統計数理研究所のTIMSACのサブルーチン化、カルマンフィルター

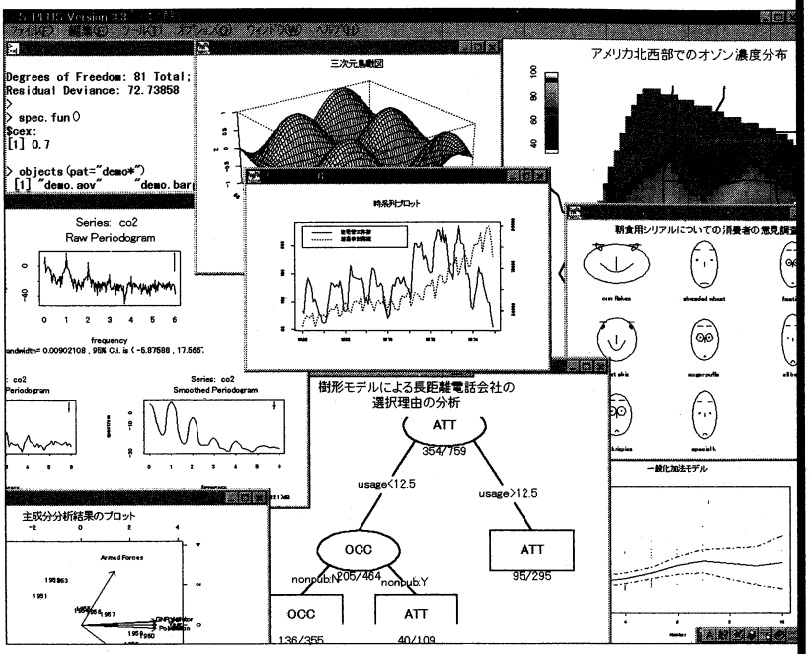
■Enterprise Minerソフトウェア
～データマイニングのすべての理論と手法をサポートする統合パッケージ～
モデリング手法（回帰分析、決定木（CHAID、C&RT、C4.5）、
ニューラルネットワーク）

株式会社SASインスティチュートジャパン
本　　社：〒104-0054・東京都中央区勝どき1-13-1 イヌイビル・カチドキ8F　TEL.03-3533-6921 FAX.03-3533-6927
大阪支店：〒530-0004・大阪市北区堂島浜1-4-16 アクア堂島西館12F　TEL.06-6345-5700 FAX.06-6345-5655
九州営業所：〒802-0001・北九州市小倉北区浅野2-14-1 小倉興産KMMビル3F　TEL.093-512-5014 FAX.093-512-5016

SASロゴ、The Power to Knowは米国SASインスティチュートの登録商標です。

MATHEMATICAL SYSTEMS INC.

創造あふれる研究開発のための
オブジェクト指向データ解析システム



S-PLUS

全国の著名企業・研究機関・大学での豊富な実績を誇ります

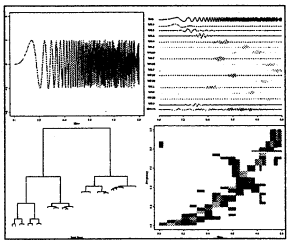
S-PLUSは高度なデータ解析機能と豊富なグラフィックス機能の両方を備えた本格的なデータ解析システムです。
対話型の素早い明快な処理で利用者の創造性を大幅に支援し、オブジェクト指向に基づく卓越したデータハンドリング能力により、データの可視化・再加工・再解析というフィードバックループを納得いくまで何度も繰り返すことができます。

主な特長

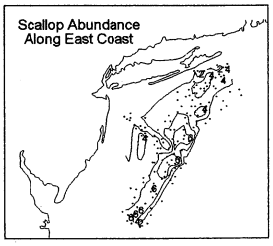
- ●一千以上の高度で最新の解析機能
  （基本演算、行列演算、探索的データ解析、線形代数、時系列解析、多変量解析、各種回帰分析、分散分析、線形モデル、検定、シミュレーション、OR　その他）
- ●数十種類のカスタマイズ自在なグラフィックス機能。
- ●オブジェクト指向のS言語による本格的なプログラミング機能により、個別の解析システムを簡単に構築できます。GUI構築ツールを備え、DDEやOCBCにも対応します。
- ●常設のトレーニングコースその他の強力なサポートでソリューションを側面支援します。数理科学を専門とするスタッフが、個別のコンサルティングにもお応えします。

特定分野ソリューションのためのアドオンモジュール

- ●S+WAVELETS　話題のウェーブレット解析のための500以上の機能
- ●S+DOX　実験計画法のための数多くの関数とグラフィックス
- ●S+SpatialStats　環境・資源工学などで話題の本格的空間統計モジュール
- ●S+GARCH　金融工学などで話題のGARCHモデルのために
- ●S+AVS　高性能3次元CGツールとAVSとのリンクモジュール
- ●S+GISlink　地理情報システムARC/INFOデータを本格的に解析可能



S+WAVELETS



S+SPATIALSTATS

対応機種、OS	主要UNIX *SunSPARC、HP9000、IBM(AIX)、DECalpha (UNIX)、SGI、NEWS*	Windows *DOS/V、PC98(Windows95、NT)*

※S-PLUSはMathSoft,Inc.が開発しライセンスしています。
※AVSはAdvanced Visual Systems Inc.が開発しライセンスしています。
※会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
（詳しい製品情報はS-PLUSホームページhttp://www.msi.co.jp/splus/をご覧ください。）

S-PLUS無料紹介セミナー定期実施中
当社新宿セミナールームにて、一人一台のパソコンを用いてS-PLUSをご説明さしあげています。お気軽にお申し込み下さい。

S-PLUSおよびAVSのお問い合わせ先

株式会社 数理システム S-PLUSグループ
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-3 フォーシズンビル10F
TEL.03-3358-6681（直通） FAX.03-3358-1727
e-mail:splus-info@msi.co.jp（URL）http://www.msi.co.jp/splus/
お問い合わせ：平日10:00～17:00（FAX、e-mailは24時間随時）